

レゴブロックを活用した授業について

学校名：津市立豊津小学校

教科等	外国語活動
実施学年	第3学年
単元名	Story Starter を使ってお店を作り、英語で買い物ごっこをしよう。

本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで協力して Story Starter を組み立て、店を表現する。 ・売る人と買う人に分かれ、「何を いくつ」ほしいか、「値段はいくらか」等の簡単な英語でのやりとりが楽しくできる。 ・ほしい物の数を使って、英語のたし算ができる。
準備物	レゴブロック（Story Starter）、英語カード、ボード

<本時の流れ>

学習活動	教師の支援・留意点		
1 練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・発音と数字の練習をする。 ・単語の発音練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・DVD を使っての練習 「A～J」 1 回目は聞き、2 回目はリズムに合わせて発音する。 ・フォニックスの発音を意識させる。 ・数字についても確かめる。 ◎英単語カードを使い、ALT に合わせて、発音する。 ・英語カードは、見やすいように掲示しておく。 		
2 学習のめあてを確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <めあて> ほしい物を買うときのかんたんな英語のやりとりをあいにくにわたるようにやってみよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ◎めあてを掲示する。 ・相手に伝わるために、どこに気をつけたらいいかを確かめる。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・お店ごっこのめあてを確かめる。 「はっきりした声で」 「顔を見て」 ・役割（店役とお客役）にわかれて、会話の確かめ 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>Hello.</td> <td>Hello, welcome to my store.</td> </tr> </table> </div>	Hello.	Hello, welcome to my store.
Hello.	Hello, welcome to my store.		

をする。 ◎お客役と店役に分かれる。 ◎二人組になり、5つのお店を順番に回る。 ◎二人組になり、お店の人として対応する。 3 学習の振り返りをする。	<table border="1"> <tr> <td>I want to buy.....</td> <td>How many?</td> </tr> </table>	I want to buy.....	How many?
	I want to buy.....	How many?	
	<table border="1"> <tr> <td>数 ほしい物</td> <td>How much?</td> </tr> </table>	数 ほしい物	How much?
	数 ほしい物	How much?	
<table border="1"> <tr> <td>▲ plus Δequal ○</td> <td>○yen, please.</td> </tr> </table>	▲ plus Δequal ○	○yen, please.	
▲ plus Δequal ○	○yen, please.		
<table border="1"> <tr> <td>Thank you.</td> <td>Thank you.</td> </tr> </table>	Thank you.	Thank you.	
Thank you.	Thank you.		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回る順番を指定する。 ・ ボードを準備し、自信をもって言えるように支援する。 ・ 二人組を作り、大きな声で言えるようにする。 ・ おはじきを交代で一個ずつ数えることで、数の数え方にもなれるようにする。 ・ 振り返りカードに書かせる。 		

< 成果と課題 >

Story Starter を使うことで、より具体化され、学習活動に意欲がもてた。特に、日頃、集中して学習することが苦手な児童が、いきいきと表現していた。その意欲が、英語活動にも推進力となった。

英語活動は、「相手に伝えること」をめあてとして常に意識させた。体験的な活動を取り入れたことで、相手を意識して、ゆっくりはっきり発音していくことは、できてきたように思う。お店ということで、それぞれ好きな商品を10点ずつ選ばせた。あらかじめ、日本でもなじみのある単語が多用されている店を指定したことで、(スポーツストア＝バレーボール・バドミントン・・・、フルーツストア＝バナナ、アップル・・・等)、なじみもあり、多くの単語に楽しみながら触れる機会ともなった。ALTから、正しい発声練習も学ぶことができた。また、二人が買い物をするという設定のため、代金にあたる数字をたしたり、お金を交互に渡したりする設定から、数字を頭の中で、英語に置き換えて伝えるという学習にも、前向きに取り組むことができた。

課題としては、Story Starter に関わる時間に多くとられてしまうことや(児童の発想もどんと広がることもある。)、学習期間の作品の保存の仕方・場所に困ったこと、グループに1個のStory Starterを確保したいこと、などがある。

また、会話の中で、助詞の使い方や複数形の名詞の表現など、本来の文法とは違う形になるが、混乱を避けるためあえて指導しなかったのも、子どもたちは、apple と apples の違いがわからないまま表現していた。

ALTの発声や導入に使用するDVDでは、正しい使われ方がされているが、教科としての英語の指導をどのように取り入れていくかは、課題として残った。